

地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

にしあいづ物語100選 その35

文・写真：井上 忠 さん

小山集落の「首なし地蔵さま」

奥川小山集落の中ほどに地蔵堂があります。中にあるお地蔵さまには頭部がありません。そんなことから「首なし地蔵さま」といわれてきました。頭部は欠け落ちた様子ではありません。お地蔵さまは両手で幼子を抱く「子安地蔵さま」で、安産や子どもたちの健やかな生育や成長を守護しています。

小山集落では毎年6月24日を縁日として、手作りのごちそうを持ち寄り、地蔵堂に集います。ごちそうをお供えした後、会津三十三観音の御詠歌を詠い、そのあと楽しい団欒のひと時を過ごすのです。長い間、こうした集いが守られ、続けられてきたことを村の人たちは誇りに思っています。

お地蔵さまに首がない理由などについては何も伝えられていませんが、抱かれた幼子の衣裳が洋服のようにも見えることから、「聖マリア像」に重ね合わせることもできます。こうした像が、「マリア観音」の名で呼ばれる例が日本各地で見られるからです。

会津地方にキリスト教が伝わったのは蒲生氏郷公人封以来といわれており、当時の奥川地区にも信仰者の存在がうかがわれています。苛酷な日常生活を余儀なくされる人々にとって、愛と慈しみの心の大切さを説く教えは新鮮であり、生きる拠り所になったのかもしれない。

しかし、1610年代以降「禁教令」が出され、以後は厳しい弾圧を受け、信仰が困難となった歴史があります。この首のないお地蔵さまには、こうした悲しい歴史と、村の女性たちが持ち続けた深い信仰心や慈愛が込められているような気がしてなりません。



安産や子の成長を守護する首なし地蔵さま。衣装の下に幼子を抱く



「首なし地蔵さま」が安置される子安地蔵尊



参考文献＝『西会津町史 第7巻』、会津郷土史研究会編『会津ふるさと散歩』

お知らせ
平成30年12月から運用を開始している西会津町の公式ウェブサイト「なじよな町、西会津。」と、公式ホームページのQRコードを掲載します。皆さん、この機会にぜひご覧ください。



今月の表紙
2月9日、雪国まつりに遊びに来てくれた男の子。新雪の中、お父さんと雪だるまを作ったり、お母さんと雪合戦をしたり、雪を思う存分楽しんでいました。カメラを構えながら、私もすっかり童心に返りました。